



2019年7月

第289号

The Service Club of The YMCA

## 東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 並木 信一  
副会長 花輪 宗命・久保田貞視  
書記 多河敏子・長谷川あや子  
会計 小口 多津子  
直前会長 久保田貞視  
担当主事 中里 敦  
プリテン 山本 英次・茂木 稔  
大久保 重子・多河 敏子

国際会長 Jennifer Jones (オーストラリア) 主題 Building today for a better tomorrow スローガン On the MOVE!! 「さあ動こう!!」  
アジア太平洋地域会長 田中博之 (東京多摩みなみ) 主題 Action 「アクション」  
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」  
東日本区理事 山田敏明 (十勝) 主題: 勇気ある変革、愛ある行動!  
副題: みんなで力を合わせて、1・2・3  
あずさ部部長 赤羽美栄子 (松本) 主題: あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために!  
クラブ会長 並木信一 主題: 誰かに、何かに、必要とされたい!

### 7月キックオフ例会プログラム

(担当:C班)

日時: 2019年7月6日(土)午後6時~8時

会場: 八王子市北野事務所 2F

受付: 福田、望月

司会: 久保田

開会点鐘	並木会長
ワイズソング	一同
ワイズの信条	一同
ゲスト・ビジター紹介	並木会長
新旧会長引継ぎ式 (久保田直前会長—並木会長)	
入会式 (並木真様)	
聖句・食前の感謝	並木会長
会食	
卓話 「BF代表アフリカの旅から」	
卓話者: 比奈地 康晴ワイズ (東京クラブ)	
東京YMCA報告	担当主事 中里
報告・連絡事項	並木会長他
スマイル	花輪
A Happy Birthday	並木会長
閉会点鐘	並木会長

### 巻頭言

会長就任にあたって

#### 会長主題—「誰かに、何かに、必要とされたい！」

会長 並木 信一

はじめに、\*主題「動こう!動かそう!」、\*副題「変わろう!変えよう!」を掲げて、常に先頭に立ってエネルギーギッシュにクラブ運営に尽力された久保田前会長のお働きに心からの感謝の言葉を捧げたいと思います。一年間本当にありがとうございました。

久保田前会長の後を受けて会長を仰せつかりましたが、生来ものぐさな私には、クラブに貢献できるような働きができるだろうか、という自らへの不安が先に立ちます。このため、まずは、会員各位の全面的なお支えを切にお願い申し上げます。

さて“誰かに、何かに、必要とされたい!”を会長主

#### 先月の例会ポイント (6月)

		BF ポイント	
在籍	16名	切手 (国内・海外)	300g
メン	12名	累計	630g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	75.0%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	5,840円
ゲスト	4名	累計	83,755円
ビジター	1名	オークション	0円
ひつじぐも	2名	累計	0円

#### 今月の聖句 (2019年7月)

御子 (みこ) は私たちのために命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです。

(新約聖書・ヨハネの手紙—3:10)

題にかかげました。この社会には、他者の支えを必要としている多くの人々があります。「誰かが」支えてあげればよいのに、と思う場面も多くあります。その時、聞こえる声があります。「その誰かになって下さい！」。

人間には、ボランティア活動に駆り立てられる「誰かに何かを、必要とされる」存在でありたいという、社会的な人間としての極めて原初的な欲求があります。「その誰かになってください」という声と、「誰かに、何かを、必要とされたい」との思いが出会ったところに具体的な活動が生まれます。このような原初的な欲求を仲間と共に満たしていきたい、との願いをもって集まっているのがワイズメンズクラブの重要な一面ではないかと考えています。従って、「誰か支えがほしい、共に労する仲間が必要だ・・・」といった、支援や仲間を必要としている、人や地域社会の課題に感受性豊かに出あい、そこから、なにか私たちに出来ることを見いだし、その課題に寄り添い、共に歩む。このような、感受性をもったクラブであり続けることを課題として考えています。

また、重点目標としては、a. そのメンバーならではの強み（特技や人脈や個性など）を発揮し、一人一人がかげがえのないメンバーであることを実感できるクラブづくりを進める。b. クラブの実力に見合せて取り組める、地域課題の発見に努める。c. 西東京YMCA並びに中央大学YMCAとの交流を継続し、青少年の成長に与り、寄り添う活動を継続する。d. 二人以上の会員増に努める。e. クラブは今秋、創立25周年を迎える。記念例会を催し、これを機に、クラブの将来展望を明らかにしたい、を掲げています。

### つなごう 平和への 道しるべ

長谷川あや子

第22回東日本区大会は6月1～2日、すでに緑の深くなった代々木の森、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。今回の大会の記念講演は森重昭氏による「もうひとつのヒロシマ、灯籠流し」でした。皆さんは2016年5月、現職大統領として初めて広島を訪れたオバマ前大統領から抱擁された森さんの映像を覚えていらっしゃるでしょうか。歴史研究者の森さんはご自身も被爆者でありながら、「原爆犠牲者に国境はない」という信念から原爆の犠牲となったアメリカ兵の遺族を40年かけて探し当て交流を続けてこられました。その交流を追ったドキュメンタリー「灯籠流し」の上映と森重昭さんの講演をお聞きしました。インターネットもない時代、国際電話をかけながら辞書を片手に手紙を書く・・・その苦闘の日に胸が詰まりました。

大会一日目にはメモリアルアワーがありますが、今年は多くの先達が天に召されました。東京西クラブの竹内隆さん、東

京山手の奈良信さん・・・ワイズの大きな星でした。そして八王子クラブの大久保清さんのにこやかなお顔が写し出された時には思わず「大久保さん、今までありがとう」と胸の中で呼びかけました。

奈良伝賞は宇都宮クラブの十河弘さんとあずさ部甲府クラブの大澤英二さんに贈られました。おめでとうございます。

晚餐会は八王子と甲府21クラブのメンバーが同じテーブルとなり、大いに飲み、大いに語りました。2021年の東日本区大会(板村哲也理事・東京武蔵野多摩クラブ)は甲府21クラブがホストします。あずさ部の一員として是非協力いたしましょう。

二日目は各事業主任の報告と表彰がありました。八王子クラブは今年は登壇するような表彰はありませんでしたが、活動の実績は誰しもが認めるところでしょう。サンライズクラブの皆さんの緑のポロシャツに交じってきびきびと働いて下さった中大ひつじぐもの須郷さん、宮内さん、川村さん、水口さん達、クラブのために一年間重責を担って下さった久保田会長、大会実行委員として走り回った花輪さん、早朝からやはり緑のシャツで受付、宿泊の管理をして下さった小口さん、担当主事として一生懸命お力を出して下さいました中里さん、本当にありがとうございました。宮内友弥理事のもとで充実した一年間を歩ませて頂きました。ありがとうございました。

(参加:久保田・小口・中里・花輪・長谷川)



高尾わくわくヴィレッジに咲いた紫陽花

## 西東京センター便り

西東京センター 主任主事 中里 敦

夏のキャンプの募集が始まりました。おおむね予定していた人数が集まり、リーダー会、トレーニングなどキャンプに向けての準備も進んでいます。予報では昨年のような猛暑の日は少なそうですが、空調環境が整った中で生活している子どもたちが多く、キャンプ前には少しずつ体を慣らすようお願いしたり、脱水症状などには気をつけなければと思っています。また、台風、ゲリラ雷雨への対応も考えておかなければいけない時代になっています。キャンプの様子などはまた報告ができればと思います。

先日、国立市の子どもの居場所についての話を聞く機会がありました。その中には国立市の補助金を受けて行っている事業もあるそうで、「小学生から18歳までを対象とし、子どもたちが気軽に立ち寄り、自由に過ごせる居場所を提供するもの」、「0歳から18歳までを対象とする食の支援または学習支援を通して、子どもや子育て家庭への居場所を提供するもの」が対象となるそうです。居場所としての場や食育としての提供の場はいくつかあるようですが、学習支援をしてくれる居場所がもっとあると良いとの意見や、国立駅を中心としたエリアには、このような居場所がないそうです。乳幼児の子育て世代の保護者が集える場所も国立駅を中心としたエリアにはないという話も聞きました。西東京センターも午前中なら空いているので、乳幼児の保護者が集える場所にはなれるかもしれない。子どもたちの学習支援は、場所の提供は難しいけれど学生YMCAの一橋YMCAと一緒に何かできないかと色々と思いをめぐらせてみました。小さなことでも地域のためになれることや地域とのつながりが少ないセンターなので、つながりを作れることを考えていきたいです。

## 中大ひつじぐも便り

中大3年 恩田 春香

豪田ヨシオ部主催の「ごみ拾い甲子園」に参加してきました。

「ごみ拾い甲子園」は、荒川河川敷で毎年行われているイベントで、大学対抗のゲーム形式であるため、楽しみながらごみ拾いができるというコンセプトでした。

荒川河川敷は遠くからは綺麗に見えたのですが、よく見るとごみだらけ！拾っても、拾っても、拾っても、ごみ。あまりの多さに仰天してしまいました。

ゴミ拾いを行わないと、荒川河川敷にたまった大量のゴミ類は、東京湾に流れ出てしまうそうです。人間が捨てたゴミが環境に悪影響を及ぼしているという話は、様々なメディアを通して耳が痛くなるほど聞かされていましたが、大量にゴミを拾い、その重さを腕で実際に感じたことで、「自分事」として胸に迫りました。

最後は、参加者みんな「社会貢献は、大人の部活だ！」と叫んでイベントは終了しました。

イベントの始めに、主催者である企業の社員の方からそのような指示を受けたときは、今流行りの「青春」をこの企画に絡めたいのではないかと思います。私たちは高校生ではないのだからそのようなワードでは喜ばないのに、と少し白々しく感じてしまったところもあったのですが、実際に活動を終えてみて、みんなで叫ぶと、しっくりくる場所がありました。社会人となっても、ライフワークとして、楽しみながら社会貢献を続けてほしいという主催者のみなさんからのメッセージが、そこには込められていたのだと感じられました。社会貢献、ライフワークとしてずっと続けていきたいです！

### 今月の聖句によせて (2019年7月)

「いなかの小さな駅での出来事。急行列車が二つ、反対方向からはってきました。その駅ですれ違うのです。ところが線路を切り替える装置が故障していました。このままでは二つの列車は正面衝突し、大惨事となります。駅の信号手がこの故障に気づきましたが直している時間はありません。信号で知らせる暇もないのです。信号手はとっさに線路の間に飛び込みました。体を平らにして手に持った鉄の棒で、線路を切り替えて押さえこみました。列車は無事に通過して行きました。乗客は、あの信号手の命がけの働きで自分たちの命が助けられたことを知りませんでした。ある乗客は新聞を読んでいたし、ある乗客は友達とおしゃべりをしていました。信号手は線路から起き上がって、再び職場に戻って行きました。」

(キリスト教例話集より引用)

\*原作は、フォーサイスの「The Work of Christ」だということです。フォーサイスは、「あなたがたはこの鉄道員の話の話を聞くと胸をうたれることでしょうか。しかし、キリストの十字架の死を聞いて胸を打たれる思いがするのでしょうか？」と、問いかけている ということです。

並木信一

## 報 告

◇ 第一例会 6月8日(土) 北野事務所 2F 18:00~20:15  
本日の卓話は「風呂敷王子」暮らしを奏でるいちまいの風呂敷」と題した横山巧(イサオ)さんの楽しい卓話でした

日野市にお住いの横山さんは、昔懐かしい緋の着物を着て茶色の袴を身に着けて、風呂敷で何かを背負ったり腰につけたりと中々便利。風呂敷を使い頭にかぶったりリボンにしたりと大忙しでした

出席者:A・・・小口・長谷川・中里、B・・・並木さんとご子息(真さん)・並木メネット・花輪・福田・久保田会長・久保田メネット

C・・・辻・茂木・大久保・山本・多河

ひつじくも・・・水口愛実さん・川村拓さん

ゲスト・・・横山巧さん(卓話講師)

ビジター・・・篠原文恵さん(東京西)

\* 絹の道ボランティア食事会の報告

6月12日(水)元、鎌倉街道で、絹の道近くのキッチン中山において 11時半から絹の道ボランティアへのご苦労さん会が開かれました

久保田・山中・茂木・赤羽・石井・色川・下重・調・多河・大久保・辻の皆さんの計11名

### 絹の道デイサービスセンター ボランティア活動

【報告】6月12日(水) 14:00~15:00 手工芸

参加者: 赤羽、石井、色川、久保田、下重、調、多河、山口、山中、茂木 (7・8月はお休みです)

【予定】9月4日(水) 14:00~15:00 手工芸

### \* B F 2019年6月報告 プルタブ報告

切手: 国内	220g	累計	390g
海外	20g	累計	630g
プルタブ	1330g		

**7月のお誕生日の皆さん**  
**花輪 宗命さん 7月 8日**

### 鷺草(サギソウ) 植え替えの集い

花輪宗命

いささか旧聞になってしまいましたが、令和の10連休の最終日:5月6日、八王子クラブでは“恒例”の行事となっている『鷺草植え替え』の集いが茂木メン邸の前庭で開かれました。

当日は、さわやかな五月晴れに恵まれ、八王子クラブのメンバーを中心に6名の“善男善女”(小口さん撮影の写真参照)が、園芸のマエストロ:茂木メンの指導の下、デリケートな気配りを要する作業にいそしみました。

白鷺の舞い飛ぶ姿そのままの純白の花を咲かせる鷺草は、まさに自然の造形の妙を思わせる日本原産の野生ランで、か

つては各地の湿地帯にその風雅な花姿を見せていましたが、開発や心ない採取によって激減しかかっていたものを、茂木メンのような園芸家の手で大切に育て、伝えられてきたため、今では、私たちは手許で、変わらぬ清らかさで涼を運んで来てくれるこの花を愛でることができます。

八王子クラブでは、茂木メンのご好意で、鷺草の可憐な苗以外にも、水はけの良い特別な土や植木鉢等も用意して頂き、“至福の時”を楽しむ『鷺草の植え替え』を15年余りにわたって続けてきているそうです。

一連の作業が済んでから、一同は茂木邸の客間に案内され、茂木夫人手づからのスイーツやお茶をご馳走になりながら、メンバーの関心事や趣味談義の花を咲かせる“至福の時”の第2弾を楽しみました。

当日は、茂木メンの趣味である「考古学」談義から、「人類の起源と進化」に話題が発展し、私たちの生命の源である広大な宇宙と悠久の時間に思いを致すきっかけともなりました。

かくして『鷺草植え替え』の集いは、今年も、教養深い八王子ワイズに相応しいアクティビティとなりました。

## 高尾わくわくたより・7月号

館長 古市 健

先月のブリテンにて、前年度は6月29日に梅雨が明け、梅雨明けと同時に猛暑が襲来したとの内容を記しました。本稿を執筆している今日が6月29日でありまして、今年も真夏の真ただ中でありまして、気持ちの良い晴天は随分とご無沙汰になっており、じめじめと湿気も多く、決して快適な季節とは言えないものの、これもこの時期にしか味わえない気候と思えば、何やら愛おしくも思えるので不思議なものです。この梅雨も、あと2週間ほど続けば明けて夏がやってまいります。

6月もまもなく終わろうとしており、早くも今年度の第一四半期が終了いたします。6月はあと数日を残しているものの、宿泊者数は前年度同月を上回り、3,600名程度の宿泊者数となる見込みとなっております。6月の宿泊者数が3,600名を超えれば2005年の開業以来はじめてのことであり、第一四半期で見ても、同様にこの四半期としては開業以来最多の宿泊者数になりそうな勢いとなっております。

この3か月間、当館に足をお運びいただいたお客様に心より感謝するとともに、大きな事故なく運営を続けてきた多くのスタッフ、関係者にも感謝しております。

いよいよ7月を迎え、当館の最も忙しい夏が始まります。大変ありがたいことに7月8日ともに今のところ4,000名程度のご予約をいただいております、8月まで見通せば当館が東京都とともに主催するキャンプの準備も始まっています。これらキャンプも既に定員を上回るお客様から参加希望の声が上がってきており、スタッフおよびボランティアリーダーたちの士気も徐々に上がってきております。引き続きお客様の安心安全を第一に、お客様をお迎えして参ります。